

糞便中カルプロテクチン測定検査とは？

炎症性腸疾患は、再燃(炎症が再び起こること)と寛解(炎症が消失した状態)を繰り返す疾患です。そのため定期的に、または症状がある場合に、下部消化管内視鏡検査を行って炎症の程度を確認し治療を検討する必要があります。

しかし下部消化管内視鏡検査は下剤の内服や内視鏡挿入などが好まれず、患者様の中には負担に感じる方もいらっしゃるかもしれません。

当院では患者様の負担をなるべく少なくするための検査方法として糞便中カルプロテクチン測定を行っております。

カルプロテクチンは腸管の炎症活動マーカーで、下部消化管内視鏡検査で観察できる炎症の状態を反映すると言われており、活動期の腸管の炎症を見ることや、寛解維持期の再燃の可能性の予測ができます。

そこで当院では腸管エコー検査や大腸カプセル内視鏡といった負担の少ない検査を用いて、また糞便中カルプロテクチンを組み合わせて同時に測定する試みを行っており、それにより炎症をより正確に測定し、適切な治療を行っていくことをめざし、より患者様の負担が少なくできるよう努力しております。

ご興味のある方は、一度当院にご相談ください。

(2019年2月現在)